

*100TH YEARS OF TURKISH-JAPANESE
DIPLOMATIC RELATIONS*

**HUMAN RESOURCES AS A SIGNIFICANT CORNERSTONE
IN THE SECOND CENTURY OF TURKISH-JAPANESE RELATIONS**

重要な基盤としての人材トルコと日本の関係の2世紀に

(TÜRK-JAPON İLİŞKİLERİNİN İKİNCİ YÜZYILINDA ÖNEMLİ BİR TEMELTAŞI OLARAK İNSAN KAYNAĞI)

Dr. Gökberk DURMAZ

SOCIAL SCIENCES UNIVERSITY OF ANKARA (ASBU)

Department of International Relations



Nov. 7, 2024 Sasakawa Peace Foundation, TOKYO

トルコと日本

- トルコと日本は、アジア大陸の異なる隅に位置する 2 つの古代文明であり、2 つの古い友人です。

トルコと日本(2)

- トルコ人と日本人は共通の人間적および文化的価値観を持ち、「私」と言う前に「私たち」と言うという考えを採用している2つの国民です。しかし、国家を優先するこれらのアプローチは、どちらの社会にとっても人権を延期することを意味するものではありません。「国家の生存のために人々の生存を維持する」というモットーに基づき、トルコ社会にとって各個人の権利は非常に重要です。同様に、日本でも個人の権利と自由が保護されています。

トルコと日本(3)

- 筑波大学での修士課程および博士課程での私の個人的および学術的観察は次のとおりです。個人および集団としての多大な献身と犠牲に満ちた歴史を持つ両国の文化規範の共通点は、目にしたり考えられたりする以上に大きい。
- 人類学と社会学の研究を通じてトルコの文化規範の深さを掘り下げると、中央アジアから来た古代の伝統とイスラム文明の完璧な調和、そしてこの素晴らしい調和が西洋風の革新に対していかにオープンで包括的であるかがわかります。1000年以上にわたってヨーロッパに広がるアナトリアの地理。

トルコと日本(4)

- 同様に、日本が何千年も統治してきた日本列島では、その独自の古代文明がアジアの伝統によって育まれ、明治維新とともに西洋式の革新を急速に吸収することで発展を続けてきたことを目の当たりにします。
- この観点から見ると、トルキエと日本が経験した類似点は、両国および二国家の相互共感能力を最大限に高めるものである。

ナショナルアイデンティティー

トルコのナショナルアイデンティティー

- 中央アジアのトルコ遺産
- イスラムの価値観
- 西洋の近代化

日本のナショナルアイデンティティー

- 日本文化
- アジア共通遺産
- 西洋の近代化

高度人材

- 国家に代わって海外で科学者を訓練するプロセスは、オスマン帝国末期に組織化され、明治維新とともに日本でも同様に実施され、1929年に我が国の建国者ガジ・ムスタファ・ケマル・アタチュルクによって制定された。世界の哲学的、科学的発展を追跡するために西側諸国に赴く政府研究者は、2013年以来、西側だけでなく世界のあらゆる地域を研究対象および研究地域としている。

私の研究

- まさにこの時点で、私の物語が始まります。私は、日本社会をより深く知ることを目的として、2014年に日本で日本研究を行うことを目的として、トルコ共和国によって選ばれた若手研究者の一人です。そして当然の結果として、私もトルコと日本の関係に直接のおよび間接的に貢献しています。
- アメリカで英語教育を受けた後、筑波大学で国際地域研究の修士号を取得し、教授を取得しました。私はティムール・ダダバエフ氏の指導の下、国際日本研究の博士号を取得しました。

私の研究(2)

- 私の修士論文は、現地調査に基づいて、文部省奨学金を利用して日本に留学生を誘致する日本の政策に関するものです。
- 2020年に完成した私の博士論文は、日本がどのようにして優秀な移民を国内に呼び込み、その優秀な人材で筑波研究学園都市を創設するかについてのものです。

私の研究 (3)

- 注意してみれば、どちらの論文も、世界的な競争環境において有能な労働力を増やすための日本の取り組みに関するものである。
- 同様の努力と困難はトルキエも経験している。博士課程を修了して大学に就職したとき、これらを比較して観察する機会がありました。さらに、私は関係する公的機関に、この意味でのトルコの能力開発の選択肢が何であることを伝えました。

この時代の世界経済

- グローバル経済は、19 世紀や 20 世紀の生産方法や体系とは大きく異なる点まで進化しました。特に、工業生産における生産方法は、過去 20 年間でかつてないほどの革新を経験しました。これに関連して、美学、機能性、贅沢品の消費に対する人々の認識も変化しました。
- 私たちの時代では、量が質に取って代わり、持続可能性とリサイクルの概念が人類の歴史の中でこれまで以上に重要な課題となっています。製品のハードウェアではなくソフトウェアが頻繁に更新され、進化し続ける時代のニーズに対応できることが今や不可欠です。日本の産業を含むハイテク技術の急速な発展。ソフトウェアエコシステムを使いこなせなければ、マクロ経済バランスに深刻な問題を引き起こすことは避けられません。

政府

- 国家のリスク認識と安全保障のニーズは多様化しています。増大する防衛およびセキュリティの脅威に対する対策を常に最新の状態に保つ必要があります。テロリズムのパラダイムは変化した。各国はサイバー脅威など、この時代に特有の新たなリスクとも闘わなければなりません。

高度人材

- 私が述べた理由から、私たちの時代の最も重要な問題は、優秀な人材の獲得競争であると私は考えています。
- この意味で、トルコと日本には、相互に補完できる長所と短所があり、またこの文脈で改善できるリスクと脅威もある。

潜在的な協力分野

- イスタンブールのアジア側に位置するトルコ・日本科学技術大学が注力する予定の特定の研究分野に加えて、
- 持続可能な生産と消費、
- 気候変動と闘い、
- 産業分野における技術移転、
- 科学的交流と共同学術研究グループの増加と支援、
- 交換留学プログラム

次の100年に関する最終メモ

- 私の意見では、人的資源の効果的な活用は、トルコと日本関係の第2世紀の優先事項であるべきです。持続可能な方法で有能な人材を育成し、そうしながら科学の進歩を協調的に追求することは、日本とトルキエ双方にとって有利な状況となる。
- 最後に、このような有意義な日にこの重要なイベントにご招待いただきましたトルコ共和国外務省、SPF、そして貴重なリスナーの皆様に感謝の意を表したいと思います。

終わり

- ご清聴ありがとうございました!
- Tel: +90-552-357-9117
- gokberk.durmaz@asbu.edu.tr